科目名	学びの技法	担当教員	宇都宮輝夫 小山充道 中林秀和 ※印は実務経験のある教員を示す。

開　講　専　攻	分　野	種　別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	1単位	講義

科　目　概　要	問題・課題の本質をまず明確にし、それに対する従来の解決法を批判的に理解し、その上で自ら能動的・創造的に思考し、有効な対処ができる能力を身につけさせる。そのために、教員による一方向的な講述という形式をとらず、学生の積極的参加を促し、能動的に学習させる。自力での発見的学習、問題解決型の学習を実践させる。授業では、グループでのディスカッション、ディベート、意見取りまとめなどをやらせる。 こうした学習法は学生にとって初めて経験するものであるだけに、それらの手本となる現実のプロセスを示してあげる必要がある。まず、問題発見の端緒となる参考文献・先行研究の探し方、その入手方法などを教えるため、図書館利用方法やコンピュータスキルなどを身につけさせる。さらに、文献資料の扱い方、調査などの実証的方法、自然科学的実験など、学問・科学の歩みの中から、精緻な方法論を拾い出してモデルを示す。
学　習　目　標	①人文社会科学の文献検索法の理解、②先行研究の用い方と引用ルールの理解、③研究視点を定め、論文を探すためのプロセスの理解。

回	項　目	主　な　学　習　内　容	到達目標	実務経験教員担当項　目
1	イントロダクション	なぜこの授業科目を最初に修得するべきなのか。どんなことが、なにゆえに重要なのかを学ぶ。	この授業全体の目的と構成を理解する。	
2	学びの前提~コミュニケーションの基礎 総論	4 年後に医療従事者として患者に接するとき、どのような態度が求められるのか。それを見すえて、今からそれを身につける努力をする。言葉づかい、身だしなみ、振る舞い方の基本を学ぶ。	基本的態度の重要性を理解することができる。ことばと身だしなみの重要性を理解し、態度として表出することができる。	
3	コミュニケーションの基礎 各論	総論を踏まえ、臨床現場における基本的態度を理解する。 患者が何を考え、何を感じているかは、簡単にわかるものではない。彼ら自身の声に耳を傾けてみる。	臨床実習での好ましい行動や態度を理解し、表出することができる。	
4	人文社会科学の文献検索法	人文社会科学分野の文献探索方法について心理学を例に実際に活用し、体験を深める。	論文執筆に役立つサイトおよび分析ソフト等を紹介。実際に活用を試み、手法が理解できる。	
5	論文を執筆する際の倫理事項	先行研究の用い方と引用ルールについて、心理学を例に、「良い悪い」の要点を理解する。	心理学論文を用い、論文執筆の際には先行研究をどのように組み込むかについて理解できる。	
6	ある研究視点からの論文探索プロセス	論文執筆を探索的に試みる。研究テーマを定め、先行研究の検討により論文作成を行う。	人文社会科学分野の論文を執筆する際の、一連の科学的手順が理解できる。	
7	科学的思考方法１	大学教育では、4 年間の調査、研究の過程で、卒業研究として卒業論文を執筆する。自然科学分野の論文、レポートの書き方を学ぶ。問題の推論・論理的思考方法・調査証明・そして検証が必要である。	与えられたテーマに従って、インターネットを活用して調査・研究し。理系のレポートが書ける。	
8	科学的思考方法２	医学・医療関係の小論文を読み、内容を要約し検証する。	与えられた小論文を読み、要約し検証する。論文の問題点や疑問点を、インターネットを活用して調べる。	

評価方法	課題レポート（50%）と試験（50%）で評価する。
教科図書	教員作成による配布資料を使用
参考図書	山口美和『PT・OT のための これで安心コミュニケーション実践ガイド』医学書院、2012 年。 深堀幸次『患者対応マナーBOOK』医学通信社、2005 年。その他授業時に指示する。
学習の準備	事前に配布した資料について予習をしておくこと。
オフィスアワー	学内メールで予約してもらって個別に対応する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	